令和４年度　鴨島支援学校　第１回学校運営協議会記録

日時：令和４年７月８日(金)
　　１３：３０～１５：３５
場所：多目的室

１　開会　【進行：掛田教頭】
学校長挨拶

２　自己紹介
会長（藤井委員）・副会長（加藤委員）の選出　【承認】

３　議題　【進行：藤井会長】
（１）学校運営の基本方針及び教育活動について　（森本校長）【承認】
資料に沿って説明（別紙参照）

（２）学校評価について　（掛田教頭）【承認】
今年度は，昨年度にご意見いただいたことを反映して，小学部と中高等部は，全ての重点課題に対して，それぞれ重点目標を立てている。
各課は，４つの重点課題から１つ選んで，重点目標を立てている。

学校評価について	
K 委員	・指導要録の電子化について。昔，情報機器に長けた教員が取り組んで提案したことがあったが却下されたことがある。セキュリティー面などで難しいのではないか。
教　頭	・指導要録について，現在は県教委主導で進めており，総合教育センターに業者が入って作成されたものを使うことになっていて，最終段階に入っている。そのため，セキュリティー面は大丈夫だが，入力方法が煩雑である。高等学校を対象として作成しているため，教科等の入力が支援学校に合わない面があり大変書きづらい。今年度から本格的に入力しているが，現在はまだ試行の段階である。入力しながらそういった問題を県にフィードバックしていき，修正しながら実施に向けて進めている。
K 委員	・良いことだと思うが，情報が漏れないか。そこだけ気になった。
F 委員	・３年ぐらい前から，市町村も県と同じシステムになってい

	る。以前なら転勤する度にシステムが違っていたので，どこに行っても同じ物を使えるということがよい。
F 委員	・今年度の学校評価は，各学部が全ての重点課題に対して取り組み，各課も重点課題を取り入れている。評価の回数についても，中・高等部の評価指標が昨年の年間２回から４回に上がっていて，しっかり取り組んでいこうという心意気が見える。 ・「安心安全な…」の各教室の危険チェック活動が２か月に１回はどうしてか。毎月の方が忘れないように思うが。
学部長	・毎週木曜日を「チャレンジタイム」として，活動内容を年間で計画している。様々な活動の半分を危険箇所のチェックに当てているが，毎回生徒と一緒に活動するため，生徒の体調等により頻回に組み入れるのが難しい。従って，計画通り確実に実施できるよう，２か月に１回としている。
F 委員	・教員がチェックするのは早いが，生徒と一緒にしたいという思いがとても良いと思う。
学部長	・自分たちが毎日使っているところを意識して欲しいという思いで設定した。

（３）今年度の取組について　　（森本校長）【承認】

昨年度のテーマの一つである「交流作品展の展示方法」については，コロナの影響もあって，本校のホームページに写真を掲載した。作品を直接見学してもらうことはできなかったが，全国や世界中の方にも見ていただける可能性があるというメリットもあった。

今年度は，吉野川市内に新しくできたショッピングモール「ザ・ビッグ」さんの２階のスペースを借りて，現地で開催することができそうである。ホームページでの Web 開催と合わせて，ハイブリット方式での開催とするため，より多くの人に見てもらえるのではないかと思う。

「ザ・ビッグ」さんは，マックスバリュー系列であり，今年度から県内の３５店舗と支援学校が連携することについて，マックスバリュー本店のホームページやチラシにも掲載させていただけることになった。

〇現地開催は，１０月３日（月）～１４日（金）

〇 Web 開催は，１０月３日（月）～３１日（月）

昨年度のもう一つのテーマが「太鼓をツールとした地域交流」であり，こちらもコロナ禍で地域との交流はできなかったが，太鼓の楽校様のご支援を受けて，音楽の授業に和太鼓を取り入れたり，教職員と一緒にワークショップを受けることができた。

従って，今年度のテーマの一つは，昨年度からの継続で「太鼓をツールとした地域交流」としたい。もう一つは，本校の最大の課題でもある「児童生徒数の減少」に対応するために，抽象的ではあるが重点課題にも挙げている「持続可能な学校づくり」としたい。

児童生徒数の減少は，学校の存続にも関わる。また，子どもたちが切磋琢磨して学び合う中で身につけていく，コミュニケーション能力が育ちにくいという重大な問題でもある。学校として何ができるか。経験豊富な委員の皆様のお知恵をお借りして，一歩でも前に進んでいきたい。

今年度の取組について	
司　会	・今年度の取組について，校長先生より二つの提案がありました。一つは「太鼓をツールとした地域交流」で，もう一つは「持続可能な学校づくり」です。このことについて，何かご意見があればお願いします。
O 委員	・「持続可能な学校づくり」の問題について。この４月から「野菊の里」の施設長として赴任した。先日，近隣の支援学校に挨拶回りをしたが，池田支援学校美馬分校の施設がとてもよかった。運動場も広いし，美馬商業高校の跡地なので，すごく広いところで伸び伸び育っているなと感じた。この鴨島支援学校を，県中央部の中核とするなら，美馬分校を参考にして阿波農業高校跡地はどうか。県有地である。吉野川市役所の周りにも県有地がたくさんある。地域と交流するなら街に出て行くのも一つだと思う。吉野川市内で言えば，K 小学校もなくなる予定なので，そこを利用させていただくとかいろいろな方法がある。通学生が通いやすい場所がよい。一方で，国府支援学校はたくさんの子どもが集まり，登下校も混み合っているので分散できたらいいのにと感じた。そういうことも含めて場所を提案できればと思う。
F 委員	・移転も視野に入れてはどうか。板野支援学校と国府支援学校は巨大化していっている。南には阿南支援学校があり，西には板野支援学校がある。鴨島支援学校だけ山に入っているのは，特別な障がいの学校というイメージがあり，敷居が高いのかなと感じた。今日は校長先生が詳しく障がい種別について話をしてくれた。地域に住んでいてもよく知らなかった。

	・特別支援の対象となる児童生徒の保護者のニーズがすごく増えている。重複障がいの子は少なくないので，この周辺の小学校等にアプローチして，静かなところだし，小学校の子にも遠くの支援学校まで行かなくでも，近くにあることを知ってもらったらどうか。少人数で手厚い指導ができることを伝えてみてはどうか。この辺の病弱の子どもで板野支援に行く子がいる。徳島病院がいつまであるかということも関係するが，遠くまで行かなくてもここにも学校があるということを知っていただけたら違うのかなと思う。
校　長	・本校に対しては，知的障がい児の受け入れ希望も聞くが，現状では，知的障がいのみの子どもは対象外となっている。施設面でも，運動場もなければ体育館もない。また，地域の人にもあまり知られていないと感じることがある。地域のセンター的機能として保幼小中学校に相談支援で伺っている巡回相談員が，本校のことを案内すると，学校見学までは来てくれる。手厚い指導や支援を望んでいる保護者にはよいが，同年代の子どもが少ないため，子ども同士の関わりを望む保護者や，友達が好きという子どもは本校を選んでくれない。見学に来たら良かったが，実際に転入学となると尻込みしてしまうケースが多い。スクールバスも寄宿舎もないので，毎朝の送迎の問題も大きい。帰りは放課後等デイサービスがあるので，本校でもほとんどが利用している。しかし登校だけは保護者に送ってもらう必要がある。県にも要望しているが，スクールバスの配置は難しい。近隣にも病弱や肢体不自由のお子さんがいると聞くが，最終的には板野支援学校を選んでいる。この状況をどうやって乗り越えていくか課題である。
K 委員	・障がい種を拡げるというのは難しい問題である。どの子も受け入れますよとしたら，ハード面で難しい。板野支援学校の児童生徒数が多いのは，知的障がいの子や発達障がいの子も OK ですよと言ったとたんに満杯状態になった。鳴門方面の子が一気に増えた。それが一つと，校長先生の資料の中に，平成４年に全校児童生徒数が２８人になった時があったが，その時にも児童生徒数の減少が大きな問題になった。小学部が今年７人となっていたが，その時も７人だった。そこで肢体不自由のお子さんを受け入れるようになって，ある程度の人数が在籍してもらえるようになったが，これから増えることは難しいと思う。市町村の就学指導（教育支援）委員会で，就学前の子に案内してもらうなどしてみてはどうか。小学１

	年生がいないと，だんだん減っていくので，就学前の子どもさんにアプローチをしていくというのはどうだろうか。 ・もう一つは，その時に板野養護（支援）学校の分校になるという話があって，今と同じような話になったことがあるが，徳島市内の病院に入っている子どもたちの訪問教育は地域で決まっていたので，ここから出かけていけなかったけれど，県教委が関わって，徳島市内の病院で２～３人の低学年の子どもさんの訪問教育が実現できたことがある。減少傾向の中で，ある程度の人数を確保していないと児童生徒数とともに教職員数も減るので，そのような対応をしたことを思い出した。訪問教育の対象の子どもさんがいつもいるとは限らない状況だが，私も一緒に訪問の担当をしている先生と一緒に中央病院や徳島大学病院に行った。近隣の小中学校のお子さんの対応をしていたことから本校に来たこともある。
校　長	・板野支援学校の分校になるという話もあったが，県の方からは，徳島病院が移転しても今のところ本校は残すと言ってくれている。子どもが少なくなっても，本校を選んで来てくれている子どもや保護者を大切にしていこうと思っているが，このまま減少の一途をたどっているのはやはり心配である。
Ｙ委員	・開かれた学校とかバリアフリーということを考えて，この学校は徳島病院と連携してきたと思うが，危機管理のことを考えれば，山の上なので水害はないとおもうが，地震や火事になったらどこに逃げるのか。上の駐車場に逃げるのかなと思うが，バリアフリー的なことを考えると難しいのかなと思う。閉校している学校や市役所の近くに県の施設がある。もっとみんなと近くでいる。送り迎えでももっと便利なところがあるのではないかと思う。現実的にそれができるかはわからないがそういう思いはある。その上で地域の人とコミュニケーションがとれるような，地域の小学校がもっと近くにあったら交流もしやすいのかなと思う。難しいとは思うが。
校　長	・県としては今後，新しく学校は建てないと思う。国府支援学校で最後と聞いている。国府支援学校は子どもの数が増え続けているので，飽和状態である。
Ｙ委員	・既存の施設を利用して，もっと便利なところはないのか。

校　長	・本校も，当初は徳島病院に入院している子どもたちのために，自然に囲まれた空気のきれいな場所に学校をということで，隣接したこの場所に建てられたのだと思う。今は，ダイバーシティ（多様性）の考え方に変わり，街の中で皆で一緒にという考え方になっている。
Y 委員	・もっと近いところで，知的障がいの子も受け入れることができれば学校自体も形は変わっていけると思う。子どもの絶対数は減っているので，もっと便利なところにあればと思う。交通の便が良かったらと思う。
I 委員	・対象とする障がいを決めるという話が出たが，もし対象とする障がいに知的障がいを追加するとなったら，どこが決めるのか。
校　長	・県であるが，今の状況では物理的に受け入れられない。施設的な問題がある。知的障がいの子どもを受け入れるためには，体育館やグランド，教室等の施設整備を整えることが必要である。
I 委員	・吉野川市在住で国府支援学校に通っている子どもがいて，送迎バスが満床だった場合には，保護者が連れて行くにしても，自力通学するにしても，送迎を支援してもらえないかという相談が市役所に数件あった。このあたりの学校でも受け入れが可能だったら，しかも全寮制のところがあったらと思ったことがあった。
校　長	・本校でも，以前から「旧阿波農業高校がいいのではないか，土地は広いし交通も便利であるので，知的障がいの子どもにとっては最適な教育環境ではないか」という意見が出ていた。しかし調べてみたら，知的障がいの子どもは圧倒的に徳島市内に多い。このあたりはあまりいない，旧阿波農業高校校舎を支援学校にして知的部門を作ったとしても，子どもたちはあまり来ないだろうとわかっている。校舎も耐震化できていない。西麻植あたりだと，バスも駅も近いが現実的ではない。本校に対しては，数年前に徳島病院が移転するという話が発表された時に，学校の存続が心配された。その後，移転の話は止まっているが無くなったわけではない。学校に病弱部門を残すとなれば，やはり近くに病院が必要である。全国的にも病弱の支援学校の側には病院がある。

	県が主導で考えてほしい。
F 委員	・「はーとふる TV」だったか，E テレで重度の方が目で追う e スポーツをやっていて，すごく活性化されると言うことで，楽しく繋がってやっている様子を見て，ここの支援学校のことを思い出した。テレビ会議システムを使って楽しいことをやっていますということを，もっともっと皆さんに知っていただいたら良いのではないか。直接にはならないかもしれないけれど，ホームページを見ていただいたらよく伝わると思う。
校　長	・コロナ禍で色々制限はあったが，逆にリモートやオンラインを活用する教育活動は一気に進んだ。８５インチの大型テレビが数台入り，いろいろな ICT 機器も整備された。間接交流というところでは，今後も可能性は拡がるけれども，やはり直接的な交流も大事である。学校見学では，鳴門に在住の方が両親で見学に来てくれ，本校を大変気に入ってくださったが，鳴門となると送迎が難しいだろう。
司　会	・校長先生や教頭先生のお話を伺って，本校に該当する方がいらっしゃれば頭に置いていただき，何か情報があれば学校にお伝えいただいたらと思います。 それぞれご意見いただきありがとうございました。 ・特にご意見がなければ，今年度の活動テーマを「太鼓をツールとした地域交流」と「持続可能な学校づくり」の二つにしたいと思います。皆様からいただいたご意見を参考として鴨島支援学校の取組に活かしていただきたいと思います。 また，委員の皆様も今のことで何かありましたら，学校の方に言っていただければと思います。 本日は，活発なご意見を頂き，ありがとうございました。

４　閉会　　【進行：掛田教頭】

次回は，１０月２１日(金) １３：３０～を予定している。都合がつかない場合はご連絡いただき，過半数の委員が欠席するとなった場合のみ，日程調整をさせていただく。